

Week of May 11, 2025 - Slave to Everyone　　Small Group Lesson 21

知り合う

新しいグループに馴染んだり、つながりを持つために、自分の行動、話し方、またはスタイルを変えなければならなかった経験を思い出してみてください。それは、新しい学校や職場でのスタート、異なる国や地域への訪問、または新しい教会への参加などの場面かもしれません。その状況はどんなものでしたか？何を変えたり、何に順応したりしましたか？その結果はどうでしたか？

聖句　コリントの信徒への手紙一 9:19-27（聖書協会共同訳）

声に出して読んでください：

19 私は誰に対しても自由な者ですが、すべての人の奴隷となりました。より多くの人を得るためです。20 ユダヤ人には、ユダヤ人のようになりました。ユダヤ人を得るためです。律法の下にある人には、私自身はそうではありませんが、律法の下にある人のようになりました。律法の下にある人を得るためです。21 私は神の律法を持たないのではなく、キリストの律法の内にあるのですが、律法を持たない人には、律法を持たない人のようになりました。律法を持たない人を得るためです。22 弱い人には、弱い人になりました。弱い人を得るためです。すべての人に、すべてのものとなりました。ともかく、何人かでも救うためです。23 福音のために、私はすべてのことをしています。福音に共にあずかる者となるためです。24 あなたがたは知らないのですか。競技場で走る人たちは、皆走っても、賞を受けるのは一人だけです。あなたがたも、賞を受けられるように走りなさい。25 競技をする人は皆、すべてに節制します。彼らは朽ちる冠を受けるためにそうするのですが、私たちは朽ちない冠を受けるために節制するのです。26 ですから、私は、やみくもに走ったりしないし、空を打つような拳闘もしません。27 むしろ、自分の体を打ち叩いて従わせます。他の人に宣教しておきながら、自分のほうが失格者とならないためです。

簡潔に内容をもう一度確認してください。どのような励ましや挑戦、慰めなどを与えられますか？

学び

今日の聖書箇所に基づいて、次の質問を一緒に考えましょう。

1:19節で、パウロは、「私は誰に対しても自由な者です」が、「すべての人の奴隷となりました。」と対比を述べています。この聖句によると、「すべての人の奴隷」となる理由は何ですか？（23節）

2: 20〜22節を詳しく見ると、パウロが福音を伝えるために適応した少なくとも3つの異なるグループがあります。それぞれのグループに対して、彼の振る舞いはどのように変わりましたか？また、「私は神の律法を持たないのではなく、キリストの律法の内にある」とユダヤの律法について強調することが重要なのはなぜでしょうか？

3: 25節によると、競技に備えるためにアスリートは何をしますか？また、アスリートが目指す「冠（報酬）」と、パウロが信者に示している「冠」との違いは何ですか？（24～27節）

分かち合い

話し合い　その１：

武牧師のメッセージの中で、父親と幼い息子が、蟻塚の中の蟻を愛することについて語り合いました。父親は、それを実現する最善の方法は「自分が蟻になること」だと提案しました。マタイ11:19を読んでみてください。今日の聖句の中で、キリストはどのようにパウロの示していることを実践されたのでしょうか？あなたは、どのように実践しますか？

話し合い　その2：

パウロは、異なる人々に合わせて自分の態度を適応させました。人に合わせることが良く、役に立つのはどのような時だと思いますか？一方で、「他者のようになること」が限界を超えてしまうのはどんな場合でしょうか？パウロは、適応しながらも信仰を損なわないようにするために、どのような工夫をしたのでしょうか？（ヒント: 21節の終わりを見てください）

具体的な祈りの課題を分かち合い、互いに仕え合いましょう。